

10. 教育活動

宇宙地球環境研究所の大学院教育は、名古屋大学大学院理学研究科、工学研究科、環境学研究科の3研究科の協力講座として行われています。理学研究科では理学専攻物理学領域（2021年度入学までは素粒子宇宙物理学専攻宇宙地球物理系）として、工学研究科では電気工学専攻宇宙電磁環境工学講座として、環境学研究科では地球環境科学専攻地球惑星科学系地球史学講座及び大気水圏科学系地球水循環科学講座として、宇宙地球環境研究に関する教育を実施しています。

大学院生は、本研究所で推進している地上観測、フィールドワーク、室内実験、年代測定、飛翔体搭載用観測機器の開発、観測データ解析、数値シミュレーション/モデリング・理論研究など、多様な手法によってそれぞれの分野の基盤的な研究を意欲的に深めることができます。また、本研究所が関わる研究分野では国内外の地上・衛星観測装置で取られたデータの活用や外国人研究者との共同研究が不可欠であり、国内外の研究者と議論を交わしながら、分野横断的な融合研究を通して新たな科学分野の創出に取り組みます。その成果を修士論文や博士論文としてまとめ、国内外の研究会・学会・学術雑誌などで発表しています。こうした環境の中、広い視野と国際的なセンスを持ち、知識を社会に還元できる人材の育成を目指します。

宇宙地球環境研究所の各研究部と理学研究科、工学研究科、環境学研究科における協力講座との関連

	理学研究科※					工学研究科		環境学研究科						
	理学専攻					電気工学専攻		地球環境科学専攻						
	物理学領域							地球惑星科学系			大気水圏科学系			
	宇宙地球物理学講座					宇宙電磁環境工学講座		地球史学講座		地球水循環科学講座				
	太陽圏環境変動 (AM)	宇宙空間物理学観測 (SS _g)	太陽宇宙環境物理学 (SS _r)	宇宙線物理学 (CR)	太陽圏プラズマ物理学 (SW)	宇宙電磁観測	宇宙情報処理	地球年代学	環境史学	気象学	雲降水科学	大気化学	水文気候学	海洋学
宇宙地球環境研究所	総合解析研究部			●			●							
	宇宙線研究部				●									
	太陽圏研究部					●								
	電磁気圏研究部		●				●							
	気象大気研究部	●					●		●	●	●			
	陸域海洋圏生態研究部												●	●
	年代測定研究部							●	●					
	国際連携研究センター	●	●		●	●	●	●				●	●	●
	統合データサイエンスセンター		●	●	●		●	●		●	●			●
	飛翔体観測推進センター		●		●					●	●	●		●

※2021年度以前入学まで：理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻宇宙地球物理系

宇宙地球環境研究所で指導を受けている学生数

(2022年4月1日 - 2023年3月31日)

	博士前期課程		博士後期課程			学部生	非正規生	計
	1年	2年	1年	2年	3年			
理学研究科	8	12	1	0	2	-	1	24
工学研究科	9	12	1	0	0	-	0	22
環境学研究科	10	14	2	3	5	-	1	35
理学部	-	-	-	-	-	6	-	6
工学部	-	-	-	-	-	10	-	10
宇宙地球環境研究所	-	-	-	-	-	-	0	0
計	27	38	4	3	7	16	2	97

※ 2022年度在籍延べ人数

研究科担当教員

(2022年4月1日 - 2023年3月31日)

■ 理学研究科 理学専攻物理科学領域

素粒子宇宙物理学専攻宇宙地球物理系 (2021年度以前入学まで)

協力講座	教授	准教授	講師	助教
宇宙地球物理学	水野 亮	長瀨 智生		
	平原 聖文	野澤 悟徳	大山 伸一郎	
		大塚 雄一		
	草野 完也	増田 智		家田 章正
	伊藤 好孝	松原 豊	奥村 暁	毛受 弘彰
	田島 宏康	三宅 芙沙		
		風間 慎吾*		
	徳丸 宗利	岩井 一正		藤木 謙一

*素粒子宇宙起源研究所所属

■ 工学研究科 電気工学専攻

協力講座	教授	准教授	講師	助教
宇宙電磁環境工学	塩川 和夫	西谷 望		中島 拓
		能勢 正仁		
		Martinez-Calderon Claudia		
	三好 由純	梅田 隆行		

■ 環境学研究科 地球環境科学専攻

協力講座	教授	准教授	講師	助教
大気水圏科学系 地球水循環科学	坪木 和久	篠田 太郎		
	高橋 暢宏	増永 浩彦		
	持田 陸宏			大畑 祥
	檜山 哲哉	栗田 直幸	藤波 初木	
	石坂 丞二	相木 秀則		三野 義尚
地球惑星科学系 地球史学	南 雅代	加藤 丈典		
	北川 浩之			小田 寛貴

学部教育への協力

本研究所教員は、次のように、名古屋大学の4年一貫教育に協力し、全学共通科目を担当する他、理工系学部からの要請により、講義・演習・実験・ゼミナールを担当している。また、理学部4年生、工学部4年生の卒業研究受け入れや研究生の教育指導も行っている。

■ 担当科目（2022年度）

学部	科目・学科	区分・コース	科目
全学教育科目	共通基礎科目	基礎セミナー	基礎セミナー
	分野別基礎科目	自然系基礎科目	物理学実験、地球科学基礎Ⅱ
	教養科目	理系教養科目	大気水圏環境の科学
理学部	物理学科		物理実験学、物理学実験Ⅰ・Ⅱ、物理学概論Ⅰ・Ⅱ、物理学特別実験、先端物理学特論、宇宙物理学Ⅲ
	地球惑星科学科		地球惑星科学の最前線、リモートセンシング、地質学実験、環境化学、太陽地球系科学、気象学
工学部	電気電子情報工学科	電気電子工学	数学1及び演習A・B、数学2及び演習、確率論・数値解析及び演習、電気回路論及び演習、電磁波工学、卒業研究A・B

学外での非常勤講師等

- ・愛知大学
- ・関西学院大学
- ・金城学院大学
- ・神戸大学
- ・椙山女学園大学
- ・大同大学
- ・千葉大学大学院工学研究院融合理工学府
- ・中京大学
- ・中部大学
- ・東京大学大学院理学系研究科
- ・名古屋市立大学
- ・東北大学大学院理学研究科
- ・奈良女子大学
- ・南山大学

大学院生の学会等発表状況

本研究所では大学院生の国際・国内学会での研究成果発表を支援している。2022年度は延べ74件の国際学会・研究集会発表、88件の国内学会・研究集会発表があった（「学会および研究集会発表」p.118～124、「受賞」p.126を参照）。

大学院生のフィールドワーク参加状況

■ 国内フィールドワーク

場 所	施設 観測地など	延べ参加学生数 (うち学部生)
青森県むつ市	むつ市下北自然の家	2 (0)
青森県中津軽郡西目屋村	弘前大学自然観察園	2 (1)
青森県むつ市	むつ市下北自然の家	2 (0)
青森県中津軽郡西目屋村	弘前大学自然観察園	2 (0)
宮城県大崎市	東北大学大学院理学研究科川渡観測所	1 (0)
神奈川県相模原市	JAXA 宇宙科学研究所	6 (2)
岐阜県神岡町	東京大学神岡施設	2 (0)
愛知県豊田市	名古屋大学大学院地震火山研究センター稲武観測所	4 (0)
愛知県豊川市	豊川観測所	4 (1)
滋賀県甲賀市信楽町	京都大学生存圏研究所信楽 MU 観測所	8 (6)
鹿児島県垂水市本城字下本城（および 鹿児島県肝属郡南大隅町）	鹿児島観測所（および佐多観測点）	2 (0)
沖縄県八重山郡与那国町	与那国島久部良バリ・与那国島旧測候所	16 (1)
国内参加学生合計人数（延べ人数）		51 (11)

■ 海外フィールドワーク

場 所	施設 観測地など	延べ参加学生数 (うち学部生)
ノルウェー・トロムソ	EISCAT レーダートロムソ観測点	2 (1)
カナダ・アサバスカ	アサバスカ大学	2 (0)
オーストラリア・カカドゥ	カカドゥ観測所	1 (0)
スイス・ジュネーブ	CERN	2 (0)
海外参加学生合計人数（延べ人数）		7 (1)

11. 国際交流

学術交流協定

全 27 件

機 関 名	国（地域）名	締 結 日
インドネシア国立航空宇宙研究所	インドネシア	1988年 5月 31日
プキョン大学校環境・海洋大学	韓国	2006年 10月 2日
韓国海洋科学技術院、韓国海洋衛星センター	韓国	2014年 4月 17日
中国科学院高能物理研究所	中国	2001年 2月 20日
中国極地研究所	中国	2005年 11月 11日
国立台湾大学理学院大気科学系	台湾	2009年 10月 30日
国立台湾大学気象気候災害研究センター	台湾	2014年 9月 3日
バングラデシュ工科大学物理学部	バングラデシュ	2008年 3月 4日
ニュージーランド国立水圏大気圏研究所	ニュージーランド	1989年 7月 26日
オークランド大学地球物理研究センター	ニュージーランド	1992年 12月 7日
カンタベリー大学理学部	ニュージーランド	1998年 7月 30日
アラスカ大学地球物理研究所	米国	1990年 7月 16日
米国海洋大気局宇宙空間環境研究所	米国	1992年 12月 15日
米国海洋大気局地球物理データセンター	米国	1993年 1月 5日
マサチューセッツ工科大学ヘイスタック研究所	米国	1994年 10月 24日
カリフォルニア大学サン・ディエゴ校 天体物理及び宇宙科学研究センター	米国	1997年 12月 22日
バージニア工科大学宇宙空間科学工学研究センター	米国	2013年 1月 23日
ラパス・サンアンドレス大学理学部附属チャカルタヤ宇宙線研究所	ボリビア	1992年 2月 20日
ブラジル国立宇宙科学研究所	ブラジル	1997年 3月 5日
エレバン物理研究所	アルメニア	1996年 10月 18日
スウェーデン宇宙物理研究所	スウェーデン	2005年 9月 1日 (1993年3月25日から継続)
UiT ノルウェー北極大学理学部	ノルウェー	2019年 5月 3日 (両機関の名称が変更になり再締結/1993年10月8日から継続)
フィンランド気象研究所地球物理部門	フィンランド	1994年 10月 21日
ロシア科学アカデミー極東支部・宇宙物理学及び電波伝搬研究所	ロシア	2007年 4月 14日
ロシア科学アカデミーシベリア支部・太陽地球系物理学研究所	ロシア	2008年 10月 28日
ロシア科学アカデミーシベリア支部・宇宙物理学及び超高層大気物理学研究所	ロシア	2012年 11月 28日
ムルマンスク極地地球物理学研究所	ロシア	2017年 3月 13日

注) () の締結日は、宇宙地球環境研究所を構成する旧組織における締結日になります。

交流受入数合計 9件/派遣数合計 5件

その他の協定

全 1 件

機 関 名	国（地域）名	締 結 日
太陽地球系物理学科学委員会	国際学術組織	2019年 7月 30日

海外連携研究機関および観測拠点* (2023年2月時点)

*観測拠点は国内も含む

名称	国(地域)名	研究機関	観測拠点	緯度	経度
SuperDARN 最高執行委員会	英国	●		—	—
フッサフェル	アイスランド		●	64.67	338.97
ガコナ	米国		●	62.39	214.78
すばる望遠鏡	米国		●	19.82	204.52
ブルックヘブン国立研究所	米国	●		40.9	287.1
アリゾナ大学	米国	●		32.2	249
アラスカ大学フェアバンクス校ポーカーフラット観測所	米国		●	65.1	213
南部パタゴニア大気観測所	アルゼンチン		●	-51.62	290.8
レーザー応用技術研究センター	アルゼンチン		●	-33.5	301.9
リオ・ガジェゴス	アルゼンチン		●	-51.6	290.8
クルディスタン大学研究機関	イラン	●		35.2	46.6
タタ基礎研究所電波天文センター	インド		●	18.9	72.8
インド・ソニパットメタン観測サイト	インド		●	29	77
デカン大学	インド	●		18.55	73.9
コトタバン	インドネシア		●	-0.2	100.32
ダーウィン	オーストラリア		●	-12.44	130.96
オーストラリア地球科学研究所 Kakadu 観測所	オーストラリア	●	●	-12.7	132.5
アサバスカ大学	カナダ	●		54.7	246.7
アサバスカ	カナダ		●	54.6	246.36
レブリュート	カナダ		●	74.73	265.07
ユーリカ	カナダ		●	80	274.1
カプスケーシング	カナダ		●	49.39	277.81
ネーン	カナダ		●	56.5	298.3
欧州原子核研究機構	スイス	●		46.2	6
EISCAT 科学協会	スウェーデン	●		67.8	20.4
チェンマイ大学	タイ	●	●	18.79	98.92
チュンボン	タイ		●	10.73	99.37
アタカマ高地	チリ		●	-23	292.3
ナイジェリア国立宇宙研究開発機構 (アブジャ)	ナイジェリア	●	●	8.99	7.38
昭和基地	南極		●	-69	39.59
カトマンズ大学	ネパール	●		27.62	85.54
国際総合山岳開発センター	ネパール	●		27.65	85.32
ネパール科学技術アカデミー	ネパール	●		27.66	85.32
ヒマラヤ山脈ロールワリン地域 (6ヶ所)	ネパール		●×6	27.9	86.38
アルタ	ノルウェー		●	69.9	23.3
トロムソ	ノルウェー		●	69.59	19.227
スヴァールバル大学センター	ノルウェー	●		78.2	15.63
ニロラ	フィンランド		●	62.34	25.51
ソダンキラ	フィンランド		●	67.4	26.6
ケボ	フィンランド		●	69.76	27.01

11. 国際交流

名称	国（地域）名	研究機関	観測拠点	緯度	経度
VLF 電波受信機、オウル湖	フィンランド		●	64.51	27.23
オウル大学	フィンランド	●		65.1	25.5
メキシコ国立自治大学 MEXART 観測所	メキシコ		●	19.32	261
セラネグラ山頂、国立天体物理・工学・電子工学研究所	メキシコ		●	18.98	262.7
モンゴル科学アカデミー・地理学地生態学研究所	モンゴル	●		47.63	108.3
レベデフ物理学研究所プシナ電波天文観測所	ロシア		●	54.82	37.63
イストーク	ロシア		●	56.78	60.88
ジガンスク	ロシア		●	66.78	123.37
マガダン	ロシア		●	60.05	150.73
パラツンカ	ロシア		●	52.97	158.25
ロシア科学アカデミーシベリア支部・寒冷圏生物問題研究所	ロシア	●		62.25	129.2
東京大学宇宙線研究所乗鞍観測所	日本		●	36.1	137.55
石垣	日本		●	24.4	124.1
佐多	日本		●	31.02	130.68
信楽	日本		●	34.8	136.1
豊川	日本		●	34.84	137.37
木曾	日本		●	35.8	137.63
琉球大学千原キャンパス（宇宙地球環境研究所中城観測点）	日本		●	26.3	127.8
SuperDARN 北海道-陸別第一レーダー	日本		●	43.5	143.6
SuperDARN 北海道-陸別第二レーダー	日本		●	43.5	143.6
東京大学宇宙線研究所神岡宇宙素粒子研究施設	日本		●	36.1	137.55
国頭	日本		●	26.76	128.21
稲武地殻変動観測点	日本		●	35.2	137
東北大学大学院理学研究科 川渡観測所	日本		●	38.75	140.8
弘前大学白神自然観察園	日本		●	40.52	140.2
ISEE 附属母子里観測所	日本		●		
ISEE 附属鹿児島観測所	日本		●		
ISEE 附属富士観測所	日本		●		
ISEE 附属陸別観測所	日本		●		
合計 68ヶ所（海外 21ヶ国、51ヶ所・国内 17ヶ所）		18	59		

国際協力事業・国際共同研究

国際協力事業・国際共同研究	代表者	相手国（地域）	相手側機関	国（地域）数
内部磁気圏のモデリング研究	三好 由純	米国	ロスアラモス国立研究所	1
ERG プロジェクトに係る国際共同研究	三好 由純	台湾	中央研究院天文及天文物理研究所	1
太陽地球系科学コミュニティのデータ標準化に関する国際コンソーシアム	三好 由純	米国 欧州（ESA 参加国）	GSFC/ NASA（SPDF, SDAC, HPDE, SPASE, CCMC） 欧州宇宙機関、フランス国立宇宙研究センター	23
科学ロケット LAMP による地磁気計測実験	三好 由純	米国	NASA, アイオワ大学、ニューハンブシャー大学、ダートマス大学	1
MUSER を中心とした太陽電波国際共同研究	増田 智	中国 韓国	中国科学院国家天文台 KASI	2
PhoENiX ミッション	増田 智	米国 英国 スイス ハンガリー ドイツ オーストリア	NASA, UCB, サウスウエスト・リサーチ・インスティテュート、ミネソタ大学、コロラド大学、プリンストン大学、ニュージャージー工科大学 ノーザンブリア大学、グラスゴー大学 北西スイス応用科学大学 エトヴェシュ・ロラード大学 ポツダム天体物理研究所 オーストリア科学アカデミー	6
LHC 加速器を用いた高エネルギー宇宙線相互作用の研究	伊藤 好孝	イタリア フランス スイス 米国	フィレンツェ大学、カタニア大学 フランス理工科学学校 欧州合同原子核研究機関 ローレンスバークレー国立研究所	4
巨大水チェレンコフ検出器を用いた宇宙ニュートリノの研究	伊藤 好孝	米国 カナダ 英国 スペイン 韓国 中国 ポーランド	ボストン大学、ブルックヘブン国立研究所、UCI、デューク大学、ジョージ・メイソン大学、ハワイ大学、インディアナ大学、ロスアラモス国立研究所、メリーランド大学、ニューヨーク州立大学、ワシントン大学 プリティッシュコロンビア大学、トロント大学、トライアンフ研究所 インペリアル・カレッジ・ロンドン、リバプール大学、ロンドン大学クイーン・メアリー、オックスフォード大学、シェフィールド大学 マドリッド大学 ソウル国立大学校、成均館大学校、全南大学校 清華大学 ワルシャワ大学	7
二相式液体キセノン TPC 検出器を用いた暗黒物質・太陽ニュートリノの研究	伊藤 好孝	ドイツ イタリア スイス 米国 スウェーデン イスラエル ポルトガル フランス、オランダ、UAE ほか	ドイツ電子シンクロトロン研究所、マックス・プランク研究所、フライブルグ大学 INFN、ポーロニャ大学 チューリッヒ大学 コロンビア大学、シカゴ大学、パデュー大学、UCSD ストックホルム大学 ワイズマン研究所 コインブラ大学	10 以上

11. 国際交流

国際協力事業・国際共同研究	代表者	相手国（地域）	相手側機関	国（地域）数
液体キセノン検出器を用いた暗黒物質・太陽ニュートリノの研究	伊藤 好孝	韓国	ソウル国立大学校、世宗大学校、韓国標準科学研究院	1
RHIC 加速器を用いた高エネルギー宇宙線相互作用の研究	伊藤 好孝	イタリア 米国 韓国	フィレンツェ大学、カタニア大学 ブルックヘブン国立研究所 高麗大学校	3
次世代大型水チェレンコフ検出器の開発研究	伊藤 好孝	米国 韓国 中国 英国 イタリア フランス スイス スペイン ポーランド ブラジル カナダ、ロシア、 ポルトガル ほか	ボストン大学、ブルックヘブン国立研究所、ロスアラモス国立研究所、UCI、デューク大学、ジョージ・メイソン大学、ハワイ大学、インディアナ大学、メリーランド大学、ニューヨーク州立大学、ワシントン大学 ソウル国立大学校、全南大学校、成均館大学校 清華大学 インペリアル・カレッジ・ロンドン、オックスフォード大学、ロンドン大学クイーン・メアリー、ランカスター大学、シェフィールド大学、ラザフォード・アップルトン研究所 INFN バーリ、INFN ナポリ、INFN パドバ、INFN ローマ サクレー研究所、フランス理工科学校 チューリッヒ工科大学、ベルン大学 マドリッド大学 ワルシャワ大学 サンパウロ大学	13 以上
マイクロレンズ効果を利用した新天体の探索	伊藤 好孝	ニュージーランド 米国	オークランド大学、カンタベリー大学、ビクトリア大学、マッセー大学 メリーランド大学、NASA	2
CTA（チェレンコフ望遠鏡群）を用いた宇宙線加速源、暗黒物質の研究	田島 宏康	ドイツ フランス イタリア スペイン スイス 英国 米国 ポーランド、ブラジル、 アルゼンチン、アルメ ニア、オーストリア、ブ ルガリア、クロアチア、 チェコ、フィンランド、 ギリシャ、インド、アイ ルランド、スロベニア、 南アフリカ、スウェー デン ほか	ドイツ電子シンクロトロン研究所、マックス・プランク研究所、ハイデルベルグ大学 サクレー原子力研究所、フランス理工科学校、パリ大学 INFN, IFSI バルセロナ大学、マドリッド・コンプルテンセ大学 チューリッヒ大学 ダラム大学、レスター大学、リード大学 SLAC 国立加速器研究所、アルゴンヌ国立研究所、ワシントン大学、アイオワ州立大学、UCLA, UCSC, シカゴ大学、スミソニアン天文台 （主要機関のみ記載）	22 以上
硬 X 線撮像分光観測による太陽フレアの研究	田島 宏康	米国	UCB, MSFC/ NASA, 米国空軍研究所	1

国際協力事業・国際共同研究	代表者	相手国（地域）	相手側機関	国（地域）数
フェルミ衛星を用いた宇宙線加速源、暗黒物質の研究	田島 宏康	米国 フランス イタリア スウェーデン	スタンフォード大学、SLAC 国立加速器研究所、GSFC/NASA、米国海軍研究所、UCSC、ソノマ州立大学、ワシントン大学、バドュー大学、デンバー大学 サクレー原子力研究所、CNRS、フランス理工科学校 INFN、イタリア宇宙機関、IFSI スウェーデン王立工科大学、ストックホルム大学	4
ガンマ線撮像分光偏光観測による太陽フレアの研究	田島 宏康	米国	UCB、ローレンスバークレー国立研究所、GSFC/NASA	1
MAGIC 望遠鏡を用いた宇宙線加速源、暗黒物質の研究	田島 宏康	スペイン ドイツ イタリア スイス ブルガリア クロアチア	高エネルギー物理学研究所、バルセロナ大学、マドリッド・コンプルテンセ大学 マックス・プランク物理学研究所、ドルトムント工科大学、ユリウス・マクシミリアン大学ヴュルツブルク パドヴァ大学、シエナ大学、ウーディネ大学 粒子物理学研究所 核エネルギー研究所 クロアチア MAGIC コンソーシアム	6
太陽中性子の研究	松原 豊	ボリビア アルメニア メキシコ	サンアンドレス大学 エレバン物理研究所 メキシコ国立自治大学	3
樹木年輪の ^{14}C 単年測定による過去の宇宙線イベントの探索	三宅 美沙	米国 スイス	アリゾナ大学 スイス連邦工科大学チューリッヒ校	2
惑星間空間シンチレーション・ネットワークによる惑星間空間擾乱の研究	徳丸 宗利	英国 ロシア インド メキシコ オーストラリア	LOFAR グループ レベデフ物理学研究所 タタ基礎科学研究所 メキシコ国立自治大学 MWA グループ	5
太陽圏トモグラフィ法を用いた太陽風 3 次元構造とダイナミックスの研究	徳丸 宗利	米国	CASS/ UCSD	1
惑星間空間シンチレーション観測を利用した太陽圏外圏域の研究	徳丸 宗利	米国	IBEX 研究グループ、IMAP	1
水星磁気圏探査衛星計画「MMO」におけるプラズマ粒子分析器の研究・開発・運用	平原 聖文	フランス スウェーデン 英国 米国 スイス	CESR/ CNRS, CETP/ IPSL スウェーデン王立宇宙物理学研究所 ラザフォード・アップルトン研究所 ボストン大学 ベルン大学 ほか	5
編隊飛行観測による地球電磁気熱圏探査のための将来衛星計画と衛星・地上連携観測の検討・協同	平原 聖文	スウェーデン	スウェーデン王立宇宙物理学研究所 スウェーデン国立宇宙委員会	1
宇宙地球結合系の将来探査計画に向けた科学課題と観測機器開発技術に関する研究	平原 聖文	スウェーデン	スウェーデン王立宇宙物理学研究所	1
SCOSTEP PRESTO プログラム	塩川 和夫	米国、英国、フランス、ドイツ、オーストラリア、カナダ、イタリア、インド、中国 ほか	SCOSTEP	30
カナダ北極域におけるオーロラ・超高層大気の高感度光学・電磁場観測	塩川 和夫	米国 カナダ	カリフォルニア大学、アウグスブルグ大学、バージニア工科大学 カルガリー大学、アサバスカ大学	2

11. 国際交流

国際協力事業・国際共同研究	代表者	相手国（地域）	相手側機関	国（地域）数
中緯度熱圏大気波動の南北共役点観測	塩川 和夫	オーストラリア	IPS 電波宇宙予報サービスセンター	1
赤道域中間圏・熱圏・電離圏変動のアジア経度と南米経度の比較研究	塩川 和夫	ブラジル	INPE	1
ロシア極東域におけるオーロラ・超高層大気の高感度光学・電磁場観測	塩川 和夫	ロシア	ロシア科学アカデミー 極東支部 宇宙物理学及び電波伝搬研究所	1
東南アジア・西アフリカ赤道域における電離圏総合観測	塩川 和夫	ナイジェリア	国立宇宙科学開発機関、ナイジェリア工科大学、タイ・ソラリン大学	1
ロシア・シベリア域における内部磁気圏の波動・粒子の観測	塩川 和夫	ロシア	ロシア科学アカデミー シベリア支部 宇宙物理学及び超高層大気物理学研究所、ロシア科学アカデミー シベリア支部 太陽地球系物理研究所	1
東アフリカ低緯度・赤道域における電離圏総合観測	塩川 和夫	エジプト エチオピア	エジプト日本科学技術大学 (E-JUST) バハルダール大学	2
ウクライナにおける中緯度電離圏総合観測	塩川 和夫	ウクライナ	電離圏研究所	1
宇宙天気観測分野における共同研究	大塚 雄一	インドネシア	インドネシア国立研究革新庁	1
タイにおける電離圏及び超高層大気の観測および研究	大塚 雄一	タイ	チェンマイ大学、モンクット王工科大学ラカバン校	1
中国南部及び東南アジア域における電離圏擾乱の発生特性とその日々変動に関する研究	大塚 雄一	中国 インドネシア タイ	中国科学院地質・地球物理研究所 インドネシア国立研究革新庁 モンクット王工科大学ラカバン校	3
複数観測装置と数値モデルを用いた中緯度プラズマバブルのグローバル的研究	大塚 雄一	南アフリカ	南アフリカ国立宇宙機関	1
EISCAT レーダーを主に用いた北極域超高層大気の研究	野澤 悟徳	ノルウェー 英国、スウェーデン、 フィンランド、ドイツ、 中国	UiT ノルウェー北極大学 EISCAT 科学協会	6
低緯度地磁気データを用いたサブストーム指数の算出	能勢 正仁	オーストラリア トルコ ドイツ スペイン デンマーク 米国	オーストラリア地球科学研究所 ボアジチ大学 ミュンヘン大学 ラモン・リユリ大学 デンマーク工科大学 アメリカ地質調査所	6
低緯度誘導磁力計ネットワークによる高周波数地磁気変動の研究	能勢 正仁	オーストラリア ニュージーランド	オーストラリア地球科学研究所 Dr. Peter Jaquierey	2
短波レーダーによる極域・中緯度域電磁気圏の研究	西谷 望	米国 英国 フランス 南アフリカ オーストラリア カナダ イタリア ロシア 中国	JHUAPL, バージニア工科大学 レスター大学 LPC2E/ CNRS ナタル大学 ラトロブ大学 サスカチュワン大学 IFSI ロシア科学アカデミー シベリア支部 太陽地球系物理研究所 中国極地研究所	9
SDI-3D プロジェクト：極域熱圏大気プロファイラの開発	大山 伸一郎	米国 フィンランド スウェーデン	アラスカ大学フェアバンクス校地球物理学研究所 オウル大学、ラッペーンランタ大学、 ソダンキラ地球物理観測所、フィンランド気象研究所 スウェーデン宇宙物理研究所	3

国際協力事業・国際共同研究	代表者	相手国（地域）	相手側機関	国（地域）数
高エネルギーオーロラ電子がもたらす地球超高層大気・中層大気への影響の研究	大山 伸一郎	フィンランド ニュージーランド 英国 ノルウェー 米国	オウル大学、フィンランド気象研究所 オタゴ大学 英国南極調査局 スヴァルバル大学 アラスカ大学	5
南米 SAVER-Net 観測網を用いたエアロゾル・大気微量気体の動態把握	水野 亮	アルゼンチン チリ ボリビア	レーザー応用技術研究センター、アルゼンチン気象局 マゼラン大学、チリ気象局 ラフロンテラ大学、サンアンドレス大学	3
太陽地球環境における高エネルギー粒子の生成と役割：気候変動への影響を探る	水野 亮	米国 ノルウェー スウェーデン	コロラド大学ボルダー校、UCLA、アリゾナ大学 UiT ノルウェー北極大学 EISCAT 科学協会	3
北京のフミン様物質の吸湿性	持田 陸宏	中国	天津大学	1
オーストラリアにおける有機物とエアロゾルの負荷量のキャラクタリゼーション (COALA)	持田 陸宏 大畑 祥	オーストラリア 米国 英国	ウーロンゴン大学、オーストラリア連邦科学産業研究機構、オーストラリア原子力科学技術機構、ニューサウスウェールズ州計画産業環境局 ジョージア工科大学、UCI ランカスター大学	3
北欧北方林の大気有機エアロゾルのキャラクタリゼーション	持田 陸宏 大畑 祥	フィンランド	ヘルシンキ大学	1
全球降水観測計画 (GPM)	高橋 暢宏 増永 浩彦	米国	NASA	1
台風に関する研究協力	坪木 和久 篠田 太郎 高橋 暢宏	台湾 米国	国立台湾大学大気科学系 コロラド州立大学	2
ジェットエンジン出力停止および航法計器異常を引き起こす高濃度氷晶雲の実態把握と検出法・予測法開発に関する基礎的研究	村上 正隆	米国	連邦航空局/NASA	1
熱帯対流自己凝集化の観測研究	増永 浩彦	英国	レディング大学	1
衛星観測による降水システム追跡アルゴリズム開発研究	増永 浩彦	米国	NASA ジェット推進研究所	1
衛星観測による雲鉛直流速推定手法開発と検証	増永 浩彦	米国	ニューヨーク市立大学	1
北極域におけるブラックカーボンエアロゾルの長期観測	大畑 祥	ノルウェー 米国 カナダ フィンランド	ノルウェー極地研究所 アメリカ海洋大気庁 カナダ政府 フィンランド気象研究所	4
Energetic Particle Chain—高エネルギー荷電粒子降り込みが中層・下層大気に及ぼす影響—	中島 拓	フィンランド	オウル大学、フィンランド気象研究所	1
インド北部水田地帯におけるメタンの連続観測	松見 豊	インド	デリー大学	1
ハノイにおける PM2.5 観測	松見 豊	ベトナム	ハノイ理工科大学	1
ウランバートルにおける PM2.5 観測	松見 豊	モンゴル	モンゴル国立大学	1
静止衛星海色イメージャー (GOCI) の検証と日本沿岸水のモニタリングへの応用	石坂 丞二	韓国	韓国海洋科学技術院	1
海表面硝酸・亜硝酸濃度による新生産：SGLI/GCOM-C による 2 つの革新的プロダクト	石坂 丞二	米国	コロンビア大学	1

11. 国際交流

国際協力事業・国際共同研究	代表者	相手国（地域）	相手側機関	国（地域）数
北部タイ湾の緑夜光虫赤潮に関する研究	石坂 丞二	タイ	ブラパ大学、カセサート大学	1
GCOM-C 沿岸プロダクトの検証用データセット取得	石坂 丞二	韓国 米国 台湾 タイ 中国 エストニア	韓国海洋科学技術院 コロンビア大学、東カロライナ大学 台湾国立成功大学 ブラパ大学 国家海洋局第一海洋研究所、南京科学技術大学 タルトゥ大学	6
統合陸域生態系－大気プロセス研究計画 (iLEAPS)	檜山 哲哉	英国、インド、フィンランド、ニュージーランド、中国、韓国ほか	自然環境研究会議生態学水文学研究センター	6
東シベリアにおける気候変化と炭素循環変化の解明に向けた、水・エネルギー・植生の観測的研究	檜山 哲哉	ロシア	ロシア科学アカデミー シベリア支部 寒冷圏生物問題研究所	1
北極域研究加速プロジェクト (ArCS II)	檜山 哲哉	米国	アラスカ大学フェアバンクス校国際北極圏研究センター	1
モンゴル中央部における凍土地下水の年代推定	檜山 哲哉	モンゴル	モンゴル科学アカデミー地理学地生態学研究所	1
東シベリアにおけるメタンフラックス観測とデータ解析	檜山 哲哉	ロシア	北東連邦大学自然科学研究所	1
ネパールヒマラヤの高標高域における降水量と降水変動の研究	藤波 初木	ネパール	カトマンズ大学、ネパール科学技術アカデミー、国際総合山岳開発センター	1
アジア降水研究計画 (AsiaPEX)	藤波 初木	インド ネパール 中国 韓国 バングラデシュ	インド気象局、インド熱帯気象研究所、ラジャスタン中央大学 国際総合山岳開発センター、ネパール科学技術アカデミー、カトマンズ大学 中国科学院チベット高原研究所、清華大学 釜山国立大学 ほか	5
国際陸上科学掘削計画死海深層掘削プロジェクト	北川 浩之	イスラエル 米国 ドイツ スイス	イスラエル地質調査所、エルサレム・ヘブライ大学 コロンビア大学、ミネソタ大学ツインシティー校 ドイツ地球科学研究センター、マックス・プランク研究所 ジュネーブ大学	4
ベトナム中部高原地域の気候変動復元	北川 浩之	ベトナム	ベトナム科学技術アカデミー	1
韓国地下水・温泉水の炭素 14 年代測定と水循環機構の研究	南 雅代	韓国	韓国地質資源研究院	1
イラン・クルジスタン、Takht-e-Soleyman 地域のトラバーチンを用いた古環境復元	南 雅代	イラン	クルディスタン大学	1
ポーランドの樹木年輪試料を用いた紀元前 660 年頃のマスター年代較正曲線の確立	南 雅代	ポーランド	シレジア工科大学	1
隕鉄中の宇宙線生成核種 ^{14}C の測定	南 雅代	米国	UCB	1
日本列島及び朝鮮半島における基盤岩類の地質年代学的研究	加藤 丈典	韓国	韓国地質資源研究院	1

国際協力事業・国際共同研究	代表者	相手国（地域）	相手側機関	国（地域）数
EPMA による測定法及び高精度定量分析法の開発研究	加藤 丈典	韓国	釜山国立大学	1
国際深海科学掘削計画第 379 次研究航海：アムンゼン海における西南極氷床史	山根 雅子	米国 ドイツ 英国 フランス スウェーデン ノルウェー 中国 韓国 インド ニュージーランド	ヒューストン大学、テキサス A&M 大学、アパラチア州立大学、米国陸軍エンジニア研究開発センター、マサチューセッツ大学、サウスフロリダ大学、モントクレア州立大学、フロリダ大学、ノーザンイリノイ大学、コロラドカレッジ アルフレッド・ウェゲナー極地海洋研究所、クリスティアン・アルブレヒト大学、プレーメン大学、フンボルト博物館 サウサンプトン大学、バーミンガム大学、英国南極観測局 ベルビニャン大学 ストックホルム大学 UiT ノルウェー北極大学 中国地質大学、同済大学 韓国地質資源研究院 国立南極海洋研究センター GNS サイエンス	10

海外機関所属研究者によるセミナー・講演

講演日	発表者	所属機関	企画名・発表タイトル	参加人数
2022.4.28	Evan G. Thomas	Dartmouth College, USA	13th SCOSTEP Online Capacity Building Lecture/ Space weather monitoring with the Super Dual Auroral Radar Network (SuperDARN)	68
2022.5.11	David J. McComas	Princeton University, USA	12th SCOSTEP/PRESTO Online Seminar/ First solar cycle of observations of our heliosphere's interaction with the very local interstellar medium	48
2022.5.12	Jyrki Manninen*	Sodankylä Geophysical Observatory, Finland	63rd ISEE/CICR Colloquium (online)/ VLF bursty-patches – new phenomena?	35
2022.5.13	H. N. Adithya	Scikraft Education and Engineering Design Pvt. Ltd., India	ISEE Solar Seminar (online)/ Solar soft X-ray irradiance variability using Hinode XRT images for the solar cycle 24	13
2022.5.19	Li Xiaolong	Environmental Engineering Center Institute of Oceanology, Chinese Academy of Sciences, Cina	ISEE Oceanography Seminar (online)/ Global estimation of phytoplankton pigment concentrations from satellite data using a deep-learning-based model	11
2022.6.16	Theodosios Chatzistergos	Max Planck Institute for Solar System Research, Germany	13th SCOSTEP/PRESTO Online Seminar/ Ca II observations: Exploiting historical treasures for solar activity and variability studies	32
2022.6.29	Bernard V. Jackson	University of California, San Diego, USA	ISEE Solar Wind Group Special Seminar (hybrid)/ Recent interplanetary scintillation predictions and forecast analyses from UCSD	10
2022.7.5	Christine Gabrielse	The Aerospace Corporation, USA	14h SCOSTEP/PRESTO Online Seminar / Mesoscales and their contribution to the global response: A focus on the magnetotail transition region and magnetosphere-ionosphere coupling	30

講演日	発表者	所属機関	企画名・発表タイトル	参加人数
2022.7.7	Rangaiah Kariyappa*	Indian Institute of Astrophysics, India	64th ISEE/CICR Colloquium (online) / Solar Spectral Irradiance (SSI) variability	16
2022.7.12	Lucilla Alfonsi	Istituto Nazionale di Geofisica e Vulcanologia, Italy	14th SCOSTEP Online Capacity Building Lecture/ Space weather ionospheric effects at high latitude	61
2022.9.8	Hugh Hudson	University of Glasgow, UK	15th SCOSTEP Online Capacity Building Lecture/ Global properties of solar flares and some recent sun-as-a-star discoveries	99
2022.9.23	Manolis K. Georgoulis	Research Center for Astronomy of the Academy of Athens, Greece	15th SCOSTEP/PRESTO Online Seminar /Forecasting the extreme end of solar weather: Flares, coronal mass ejections and SEP event complexes	61
2022.10.25	Pekka Veronen	Finnish Meteorological Institute/ Sodankylä Geophysical Observatory, University of Oulu, Finland	16th SCOSTEP Online Capacity Building Lecture/ Response of the Earth's middle atmosphere to solar particle forcing	66
2022.11.10	Shibaji Chakraborty	Virginia Tech, USA	Division for Ionospheric and Magnetospheric Research Seminar (hybrid)/ Ionospheric response to solar flares observed in SuperDARN HF radars	36
2022.11.21	Brian Welsch	University of Wisconsin Green Bay, USA	ISEE Solar Seminar (online)/ Coronal currents and the storage & release of magnetic energy	14
2022.11.24	Cheh Wee	Institute of Ocean and Earth Sciences, Universiti Malaya, Malaysia	ISEE Oceanography Seminar (online)/ Performance of satellite-based sea surface temperature in the Malaysian waters	11
2022.12.1	Joe Zender	ESA-ESTEC, Noordwijk, The Netherlands	ISEE Solar Seminar (online)/ Proba-3: Observe the solar corona by fine formation flying space weather geoelectromagnetic effects	11
2022.12.20	Rumi Nakamura*	Space Research Institute, Austrian Academy of Sciences, Austria	65th ISEE/CICR Colloquium (online) / <i>In-situ</i> observation of magnetic reconnection: Diffusion region and outflow disturbances	22
2023.2.3	Matthew Igel	University California, Davis, USA	Prof. Matt Igel Seminar (hybrid)/ Conceptual models for tropical convective rainfall and dynamics	30
2023.2.9	Pavlo Ponomarenko*	University of Saskatchewan, Canada	66th ISEE/CICR Colloquium (hybrid) / Towards empirical model of HF propagation at very high latitudes	38
2023.2.16	Samuel Krucker	University of Applied Sciences Northwestern Switzerland, Switzerland / University of California, Berkeley, USA	ISEE Solar Seminar (hybrid)/ Hard X-ray solar flare observations with Solar Orbiter/STIX	13
2023.2.20	Hermann Opgenoorth	University of Umea, Sweden	67th ISEE/CICR Colloquium (hybrid)/ On the origins and characteristics of three-dimensional current systems in near-Earth space and their implications for space weather	16
2023.2.27	Matthias Förster	GFZ German Research Centre for Geosciences, Germany	68th ISEE/CICR Colloquium (hybrid)/ Estimation of effective ion masses by Langmuir probes onboard the Swarm satellites	11
2023.3.30	Gary P. Zank	University of Alabama in Huntsville, USA	69th ISEE/CICR Colloquium (hybrid)/ Heating the solar corona and driving the solar wind: Are we nearing a solution?	11

*兼 ISEE 所属

<略称>

CCMC:	Community Coordinated Modeling Center
CESR:	Centre d'Etude Spatiale des Rayonnements
CETP:	Centre d'étude des environnements terrestres et planétaires
CNRS:	Centre National de la Recherche Scientifique
EISCAT:	European Incoherent Scatter Scientific Association
GSFC:	Goddard Space Flight Center
HPDE:	Heliophysics Data Environment
IBEX:	Interstellar Boundary Explorer
IFSI:	Istituto di Fisica dello Spazio Interplanetario
IMAP:	Interstellar Mapping and Acceleration Probe
INFN:	Istituto Nazionale di Fisica Nucleare
INPE:	Instituto Nacional de Pesquisas Espaciais, Brazilian Institute of Space Research
IPS:	Ionospheric Prediction Services
IPSL:	Institut Pierre-Simon Laplace
JHUAPL:	Johns Hopkins University Applied Physics Laboratory
KASI:	Korea Astronomy and Space Science Institute
LOFAR:	Low Frequency Array
LPC2E:	Laboratoire de Physique et Chimie de l'Environnement et de l'Espace
MAGIC	Major Atmospheric Gamma-ray Imaging Cherenkov Telescope
MSFC:	Marshall Space Flight Center
MWA:	Murchison Widefield Array
NASA:	National Aeronautics and Space Administration
SCOSTEP:	Scientific Committee on Solar Terrestrial Physics
SDAC:	Solar Data Analysis Center
SLAC:	Stanford Linear Accelerator Center
SPASE:	Space Physics Archive Search and Extract
SPDF:	Space Physics Data Facility
UCB:	University of California, Berkeley
UCI:	University of California, Irvine
UCLA:	University of California, Los Angeles
UCSC:	University of California, Santa Cruz
UCSD:	University of California, San Diego
UiT:	University of Tromsø

海外機関所属研究者の来訪

(2022年4月1日 - 2023年3月31日)

【地域別】

地域	渡航先	人数(延)	
アジア地域 (7)	インド	16	32
	インドネシア	1	
	韓国	3	
	台湾	5	
	中国	3	
	バングラデシュ	1	
	マレーシア	3	
北米 (2)	カナダ	2	18
	米国	16	
欧州 (12) (NIS 諸国を含む)	イタリア	1	27
	英国	2	
	オーストリア	1	
	オランダ	3	
	スイス	1	
	スウェーデン	2	
	チェコ	5	
	ドイツ	6	
	フィンランド	3	
	フランス	1	
	ポーランド	1	
ロシア	1		
オセアニア (1)	オーストラリア	1	1
中東 (1)	イラン	1	1
アフリカ (5)	ウガンダ	1	8
	エジプト	1	
	エチオピア	1	
	ナイジェリア	2	
	南アフリカ	3	
合計	28	87	

【事業別】

事業区分	人数(延)
文部科学省事業	4
日本学術振興会事業	10
本学事業	61
先方負担	3
その他	9
合計	87

【訪問目的別】

訪問目的	人数(延)
学会・シンポジウム	11
共同研究	76
合計	87

海外派遣

教員の外国出張

(2022年4月1日 - 2023年3月31日)

地域	渡航先	人数(延)	
アジア (2)	台湾	1	2
	ベトナム	1	
北米 (2)	カナダ	2	18
	米国	16	
中南米 (5)	アルゼンチン	2	6
	ウルグアイ	1	
	チリ	1	
	パラグアイ	1	
	ブラジル	1	
欧州 (13) (NIS 諸国を含む)	イタリア	5	50
	英国	3	
	ギリシャ	4	
	クロアチア	1	
	スイス	10	
	スウェーデン	2	
	スペイン	4	
	ドイツ	6	
	ノルウェー	6	
	フィンランド	2	
	フランス	3	
	ベルギー	2	
	ポーランド	2	
オセアニア (1)	オーストラリア	2	2
アフリカ (2)	カーボベルデ共和国	1	2
	南アフリカ	1	
その他 (1)	南極大陸	1	1
合計	26	81	

12. 社会活動

一般向け講演会・施設の一般公開・出前授業・体験学習等

開催期間	企画名称 (会場)	概要、講演タイトルなど	主催・共催	出演・登壇	参加人数
2022.4.3	IHRP2022：全国高校生異分野融合型研究プログラム (オンライン)	週例ワークショップ：愛知県気候変動と永久凍土「水文気候学の観点から見た“水”」	特定非営利活動法人全国高校生異分野融合型研究プログラム IHRP (Interdisciplinary High School Research Program)	檜山 哲哉	約 20
2022.4.12	愛知学院大学 第 193 回モーニングセミナー(愛知学院大学 楠元キャンパス 110 周年記念講堂：愛知県名古屋市)	地球温暖化で永久凍土・北極の氷が融けている！～北極海の海水融解は、一段と地球温暖化を加速する！～	愛知学院大学 モーニング・セミナー運営委員会	檜山 哲哉	約 150
2022.5.10	静岡県立浜松工業高等学校 SSH 事業：研究課題「宇宙天気予報の基礎研究～オーロラ発現予測～」(オンライン)	*1 参照			3
2022.6.3	2022 年度 中部原子力懇談会岐阜支部総会 (岐阜商工会議所会館 2 階大ホール：岐阜県岐阜市)	地球温暖化と激甚化する台風	中部原子力懇談会岐阜支部	坪木 和久	100
2022.6.3	北海道警察沼田警察署オンラインセミナー (オンライン)	北海道の激甚気象災害と地球温暖化に伴う将来変化	北海道警察沼田警察署	坪木 和久	15
2022.6.12	宇宙地球環境研究所名大祭一般講演会「宇宙に開かれた窓・極域から探る宇宙地球環境」および合同展示会 (名古屋大学坂田・平田ホールおよび豊田講堂：愛知県名古屋市)	*2 参照			講演会 88 展示会 約 250
2022.6.6-6.10	2nd Iberian Space Science Summer School (i4s) (ハイブリッド / University of Alcalá, Madrid, Spain)	Geomagnetic Field	アルカラ大学、SCOSTEP, International Space Weather Initiative, 宇宙地球環境研究所	能勢 正仁	45
2022.6.17	NLS セミナー	線状降水帯は予測できるのか、その予測情報をどう解釈し利用するのか	NSL セミナー	坪木 和久	80
2022.6.21	静岡県立浜松工業高等学校 SSH 事業：研究課題「宇宙天気予報の基礎研究～オーロラ発現予測～」(オンライン)	*1 参照			3
2022.7.9	シチズンサイエンス・ワークショップ「雷から文化を創造する」～雷の見える化でわかる価値～ (石川県政記念しいのき迎賓館：石川県金沢市)	気象学的な見地から、雷に関する研究の現状と将来展望を紹介する	理化学研究所開拓研究本部、同情報統合本部	篠田 太郎	30
2022.7.20	Public Talk：National Observatory of Athens (Visitor Center of National Observatory of Athens, Greece)	Historical Auroral Displays and Millennial Space-Weather History	SafeSpace project	早川 尚志	32
2022.7.27, 10.5	NEXt Program 名古屋大学エグゼクティブ・トレーニングプログラム(ハイブリッド / 名古屋大学：愛知県名古屋市)	年輪や氷床に刻まれた過去の太陽活動	名古屋大学	三宅 美沙	10

開催期間	企画名称 (会場)	概要、講演タイトルなど	主催・共催	出演・登壇	参加人数
2022.7.29	岡崎高校総合学習 (名古屋大学研究所共同館 II : 愛知県名古屋市)		*1 参照		10
2022.8.6	木曾観測所特別公開 (名古屋大学宇宙地球環境研究所木曾観測施設 : 長野県木曾郡)		*3 参照		44
2022.8.11	「天文学の最前線」第 30 回公開オンラインセミナー (オンライン)		*4 参照		約 150
2022.8.22-9.2	「民間における宇宙利用」第 7 回基礎コース (ハイブリッド / 名古屋大学 : 愛知県名古屋市)	座学による講義と講義内容に基づく実践的な実習。宇宙開発・人工衛星利用の現状からプロジェクトの進め方まで学修。	名古屋大学宇宙地球環境研究所宇宙開発利用推進室	田島 宏康、高橋 暢宏、田中 秀孝、山岡 和貴	61
2022.8.23	出前授業 (こども園 IZUMI およびこども園成稔 : 徳島県鳴門市)	なんきょくってどんなどこ？	徳島県幼保連携型認定こども園 IZUMI、公私連携幼保連携型認定こども園成稔	佐々木 聡史	約 60
2022.8.26	講演会「南極の世界へようこそ」(鳴門市鳴門西小学校 : 徳島県鳴門市)	南極ってどんなどこ？	鳴門市鳴門西小学校、鳴門東小学校	佐々木 聡史	約 100
2022.9.21	令和 4 年度第 1 回市民環境アカデミー (文化フォーラム春日井 : 愛知県春日井市)	気候変動が永久凍土に及ぼす影響	春日井市	檜山 哲哉	約 30
2022.10.3	あいちゼロカーボン推進協議会講演会『気候変動をもたらす要因、気候変動をもたらす未来』(ハイブリッド / ウィンクあいち小ホール 1 : 愛知県名古屋市)	気候変動が北極域に及ぼす影響	あいちゼロカーボン推進協議会	檜山 哲哉	約 50
2022.10.5	NExT Program : 名古屋大学エグゼクティブ・トレーニングプログラム (ハイブリッド / 名古屋大学 : 愛知県名古屋市)	年輪や氷床に刻まれた過去の太陽活動	名古屋大学	三宅 美沙	10
2022.10.6	令和 4 年度第 3 回「地方公共団体の危機管理に関する研究会」(Ike・Biz としま産業振興プラザ : 東京都豊島区)	災害大国日本の激甚気象 : 台風の現状と将来変化	一般財団法人日本防火・危機管理促進協会	坪木 和久	100
2022.10.13	静岡県立浜松工業高等学校 SSH 事業 : 研究課題「宇宙天気予報の基礎研究～オーロラ発現予測～」(オンライン)		*1 参照		3
2022.10.15	第 18 回名古屋大学ホームカミングデイ・オンライン企画 (オンライン)	宇宙地球環境研究所の紹介	名古屋大学	宇宙地球環境研究所広報委員会	アクセス数 308 10.14-10.31
2022.10.15	第 679 回 駿台天文講座 (ハイブリッド / 駿台学園視聴覚室 : 東京都北区)	太陽の活発な活動と宇宙天気予報～宇宙の嵐から私達の生活を守るために～	駿台学園	草野 完也	100
2022.10.20	刈谷北高校 大学模擬授業 (愛知県立刈谷北高等学校 : 愛知県刈谷市)	講義「オーロラと宇宙のさえずり」	愛知県立刈谷北高等学校	三好 由純	40
2022.10.20	不動産協会中部支部 令和 4 年度 10 月例会	激甚災害をもたらす台風の実態と地球温暖化に伴う将来変化	一般社団法人不動産協会	坪木 和久	40

12. 社会活動

開催期間	企画名称 (会場)	概要、講演タイトルなど	主催・共催	出演・登壇	参加人数
2022.10.25	令和4年度国立大学図書館協会東海北陸地区助成事業研修会(オンライン)	RDM 支援について図書館へ期待すること	国立大学図書館協会	能勢 正仁	50
2022.10.30	第23回 気象サイエンスカフェ in 名古屋 (オンライン)	豪雨をもたらす線状降水帯の実態と大気の川の航空機観測	日本気象学会中部支部、日本気象予報士会東海支部	坪木 和久	80
2022.11.4	陸別町社会連携連絡協議会連携講座「出前授業」(オンライン)	*5 参照			21
2022.11.10	UCLA SMART Talk (オンライン)	Geomagnetic Field Observations Around the Globe	University California, Los Angeles	能勢 正仁	15
2022.11.25	経済産業省経済産業政策局・産業技術環境局補助支援事業・カーボンニュートラル社会連携講座(オンライン)	地球温暖化が北極域に及ぼす影響	国立高等専門学校機構福島工業高等専門学校	檜山 哲哉	約 300
2022.12.8	豊山町生涯学習講座・豊寿大学(豊山町社会教育センター2階ホール:愛知県西春日井郡)	地球温暖化と永久凍土	豊山町教育委員会	檜山 哲哉	約 30
2022.12.11	防災講演会あいち:「激甚化する気象の実体」(伏見ライフプラザ鯉城ホール:愛知県名古屋市)	激甚災害をもたらす台風の実態と地球温暖化に伴う将来変化	名古屋市地方気象台、愛知県、名古屋市	坪木 和久	100
2022.12.14	リスク総括セミナー2022(ハイブリッド/パンドスタジオ赤坂:東京都港区)	セッション4:台風と線状降水帯豪雨の航空機観測:特に2022年の台風と豪雨について	リスク対策.com	坪木 和久	400
2022.12.20	先輩授業(栃木市立大平中央小学校:栃木県栃木市)	中央小から南極へ	栃木市立大平中央小学校	佐々木 聡史	120
2023.1.13	岡崎高等学校 SSH 事業 EC 研修「第1回 SCIENCE TALK」AZ(愛知県立岡崎高等学校:愛知県岡崎市)	Why Study Space Weather? 電磁イオンサイクロトロン波動によるイオン散乱に対する電離圏の効果	科学技術振興機構次世代人材育成事業、岡崎高等学校 SSH 事業	Shreedevi, P.R.	40
2023.1.27	立命館大学防災フロンティア研究センター 2022 年度シンポジウム「巨大災害のモニタリング~最新動向~」(ハイブリッド/キャンパスプラザ京都第3講義室:京都府京都市)	スーパー台風の航空機観測	立命館大学防災フロンティア研究センター	坪木 和久	250
2023.2.9	リカタビ。2022(関西学院千里国際高等部:大阪府箕面市)	地球環境と二酸化炭素観測	関西学院千里国際高等部	長濱 智生	100
2023.2.14	陸別町社会連携連絡協議会連携講座「出前授業」(オンライン)	*5 参照			20
2023.2.27-3.10	「民間における宇宙利用」2週間上級コース(ハイブリッド/名古屋大学:愛知県名古屋市)	座学による講義と講義内容に基づく実践的な実習。熱真空・振動試験、人工衛星データ解析など基礎コースよりも専門的なカリキュラム体系。	名古屋大学宇宙地球環境研究所宇宙開発利用推進室	田島 宏康、石坂 丞二、田中 秀孝、山岡 和貴	53
2023.3.2	リカタビ。2022(関西学院千里国際高等部:大阪府箕面市)	小型分光計による二酸化炭素計測	関西学院千里国際高等部	長濱 智生	6
2023.3.8	名古屋大学オンラインセミナー"MEBINAR"『自然が教えてくれる「太陽活動」-「宇宙天気」の過去と今を知る-(オンライン)』	プログラム①「オーロラと宇宙の天気」プログラム②「過去の巨大な太陽面爆発を探る」プログラム③:トークセッション「地球の自然から宇宙を知る」	名古屋大学	三好 由純 三宅 美沙	視聴申込: 239 当日視聴者: 83

開催期間	企画名称 (会場)	概要、講演タイトルなど	主催・共催	出演・登壇	参加人数
2023.3.18	海を観る・地球を知る 2023 ～体験！ 海洋研究最前線 in 蒲郡～ (蒲郡市生命の海科学館：愛知県蒲郡市)	ワークショップ1：二重拡散対流の室内実験、ワークショップ2：プランクトンの顕微鏡観察	名古屋大学宇宙地球環境研究所、蒲郡市生命の海科学館	相木 秀則、石坂 丞二、三野 義尚	70
2023.3.18, 3.25	名古屋大学地域貢献事業「石や遺跡の年代はどうしてわかるの？」令和4年度春の体験学習 (中津川市鉱物博物館：岐阜県中津川市、名古屋大学研究所共同館Ⅱ：愛知県名古屋市)	*6 参照			13
2023.3.27-3.31	理系大学生のための「太陽研究最前線体験ツアー」(訪問先: 名古屋大学宇宙地球環境研究所、国立天文台三鷹キャンパス、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所、京都大学大学院理学研究科附属天文台)	「宇宙天気と宇宙気候：太陽活動を予測する」(草野完也)「太陽風と太陽圏研究の最前線」(岩井一正)など	名古屋大学宇宙地球環境研究所、京都大学大学院理学研究科附属天文台、国立天文台 (太陽観測科学プロジェクト)、宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所、茨城大学理工学研究科、東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻、新潟大学大学院自然科学研究科宇宙情報学研究室、大阪大学大学院理学研究科宇宙地球科学専攻宇宙進化グループ、滋賀大学教育学部、太陽研究者連絡会	草野 完也、岩井 一正、他機関の講師も多数。	10

*1：総合学習・体験学習の受け入れ

毎年数件程度、中学校・高等学校の総合学習・体験学習を受け入れている。本年度は2校を受け入れた。静岡県立浜松工業高等学校にはオンライン体験学習を実施した。大山伸一郎講師と岩井一正准教授が授業を担当し、オーロラの発生メカニズムやオーロラ発生に関係する太陽風の予測についての講義を行った。愛知県立岡崎高等学校には対面で体験学習を実施した。「宇宙天気について」(大塚雄一准教授)と「地球温暖化について」(石坂丞二教授、高橋暢宏教授、檜山哲哉教授)という2つの講義を行った。その後、年代測定装置の見学と実験、および宇宙線検出装置の見学と解説を行い、実際の装置を見学しながら学習してもらった。(主催：科学技術振興機構次世代人材育成事業、静岡県立浜松工業高等学校SSH、愛知県立岡崎高等学校、宇宙地球環境研究所)

*2：宇宙地球環境研究所名大祭一般講演会「宇宙に開かれた窓・極域から探る宇宙地球環境」および合同展示会

研究所で行われている研究内容を一般に広く知ってもらうため、毎年6月開催の名大祭に合わせ、「研究室公開」「特別講演会」「名大祭合同展示会」などを実施している。本年度は、一般向け「特別講演会：宇宙に開かれた窓・極域から探る宇宙地球環境」を対面形式で開催した。コロナ禍で休止していたが、愛知県の感染症対策ガイドラインに沿って策を講じながら、3年ぶりに開催することができ、会場となった名古屋大学坂田・平田ホールには、小学生を含む88名が参加した。「瞬くオーロラと宇宙のさえざり」(三好由純教授)と「南極の転変から観る地球環境とその変動」(栗田直幸准教授)と題した2つの講演では、アニメーションを駆使した動画を用いるなど工夫を凝らした内容で、分かりやすく最新の研究を紹介した。

また、合同展示会では名古屋大学豊田講堂シンポジオンにおいて研究内容を紹介するポスター展示とビデオ放映、また一般向け冊子の配布を行った。感染症対策のため、教員や学生によるポスター説明は中止になったが、印刷物

を多くの来場者に配布できた。研究所パンフレットの配布数は247部であった。(主催：名古屋大学(名大祭実行委員会主管))

*3：木曾観測所特別公開

附属木曾観測施設にある太陽風観測システム(長野県木曾郡木曾町)を毎年夏に一般公開している。隣接する東京大学木曾観測所と合同で開催し、普段近くで見ることのできない大型アンテナや望遠鏡、施設内の装置を間近で見学できるほか、パネルを用いた研究紹介が行われることから、各地から天文ファンが大勢訪れる。コロナ感染症の影響から、本年度は公開を1日だけに限定し、3年ぶりに開催した。来訪者は44名であった。(主催：東京大学大学院理学系研究科附属天文学教育研究センター木曾観測所、宇宙地球環境研究所)

*4：「天文学の最前線」第30回公開オンラインセミナー「最新のテクノロジーと宇宙」

毎年夏休みの時期に天文学研究者を集め、一般向けの分かりやすい講演会を開催している。2021年度に引き続き、本年度もオンラインで実施した。「超小型衛星で切り拓く宇宙観測」と題して本研究所の山岡和貴特任准教授が講演をした。(主催：名古屋大学理学研究科、名古屋大学宇宙地球環境研究所、名古屋市科学館)

*5：陸別町社会連携連絡協議会連携講座「出前授業」

陸別町・名古屋大学・北海道大学・北見工業大学・国立環境研究所・国立極地研究所の6機関による陸別町社会連携連絡協議会が行う出前授業で、陸別町立陸別小学校と同中学校において実施している。授業の担当は協議会内で順番に行っている。本年度は2021年度同様、オンラインで実施した。11月4日に陸別中学校の1年生の生徒21名を対象に「AIってなんだろう?」、また翌年2月14日、陸別小学校の6年生の児童20名を対象に「じゃんけんロボットを見てみよう」と題して、長濱智生准教授が授業を担当した。(主催・共催：陸別町社会連携連絡協議会、共催：陸別町教育委員会、陸別町立陸別中学校、同陸別小学校)

*6：名古屋大学地域貢献事業「石や遺跡の年代はどうしてわかるの?」令和4年度春の体験学習

毎年テーマを変えて「見学・巡検(野外調査に出かけて自然にふれる)」、「科学実験(科学の楽しさにふれる)」、「講義(教員による解説、学習成果発表)」というユニークな体験学習を小学校高学年向けに実施している。2021年度はコロナ禍で、教材配布とオンライン参加の形式を試みたが、本年度は体験学習として実施できた。1日目に中津川市鉱物博物館、苗木花崗岩の露頭、苗木城跡を訪れ、岩石・鉱物観察、放射線量測定を行い、2日目に名古屋大学にて、講義・実習を行い、放射性物質、放射線、放射年代測定について総合的に学べる内容とした。また、2日目までの期間には簡易放射線測定器を各自持ち帰り、自宅周辺の放射線量を測定するという形で学びを発展させた。南雅代教授、加藤丈典准教授他年代測定研究部メンバーが担当した。(主催：宇宙地球環境研究所、協力：中津川市鉱物博物館)

■ その他の広報活動

1. 一般向け冊子の制作・配布

宇宙地球環境を題材にした科学解説「50のなぜ」シリーズや科学コミックシリーズなどの小冊子を制作し、最先端の研究を分かりやすく解説して、広く社会に紹介することで、研究成果を国民へ還元している。中高生にも理解できるように、内容の理解を助ける親しみやすいイラストを多く添え、より読みやすくなるように仕上げている。これらの冊子は、本研究所ウェブページに常時掲載しているほか、研究所公開や講演会、ポスター展示などでは一般に配布している。また、りくべつ宇宙科学館でも来場者に配布している。

2. Newsletterの発行

本研究所の最新情報を伝えるために、ニュースレターを発行している。研究内容の紹介やイベント等の開催報告、ニュース、コラムなどを掲載し、本年度はVol.14(2022年8月)とVol.15(2023年2月)を発行した。

3. ウェブページの運用

本研究所のウェブページ (<https://www.isee.nagoya-u.ac.jp/>) を公開し、最新の研究成果等を公表するとともに、研究所発行各種冊子の PDF ファイルを掲載し、研究所の活動と研究成果の最前線を一般市民に即座に伝える活動を行っている。

報道等

■ 新聞（デジタル含む）掲載

年月日	新聞名	記事
2022.4.16	South China Morning Post (web)	Scientists find oldest description of an aurora, or northern lights, in ancient Chinese texts
2022.4.25	読売新聞（夕刊）	「太陽フレア」予測向上へ 新拠点 名大など 通信障害・停電防ぐ
2022.5.1	日本経済新聞（朝刊）	オーロラに「ロケット命中」 名大など 電子状態解明へ研究
2022.5.8	読売新聞（朝刊）	南極のこと 現地に質問 大垣の中学生 昭和基地つないで教室
2022.5.30	朝日新聞（朝刊）	線状降水帯 一気に氾濫 発生なら豪雨「すぐ逃げらんと」 災害大国 予測情報頼みは禁物
2022.6.16	中日新聞（夕刊）	オーロラ出たらオート通知 AI 利用 観測・観光の役に 名大などシステム開発
2022.6.28	中日新聞（朝刊）	早い梅雨明け ラニーニャ影響
2022.6.28	中日新聞（静岡：朝刊）	ラニーニャが影響 高気圧で前線北上 揺り戻しの雨の可能性も
2022.6.28	毎日新聞（東京：朝刊）	クローズアップ：偏西風蛇行→高気圧張り出し 梅雨前線、一気に北上 温暖化で変わる「常識」
2022.7.4	中日新聞（朝刊）	大気の河 空からつかめ 名大など 航空機で今週にも観測 「線状降水帯 予測につながる」
2022.7.4	中日新聞（朝刊）	備える 3・11 から 第 201 回 線状降水帯の予測 早めの避難に道 課題は精度 発生の見逃し多く 的中は 25% 「予報士が解説を」
2022.7.4	日経産業新聞	太陽フレアの防災対策 地震や津波級の備えを 名古屋大学教授 三好由純氏（直談専門家に問う）
2022.7.4	毎日新聞	上空の電子乱れで津波を早く検知可能 トンガ噴火解析 名古屋大
2022.7.5	日経産業新聞（web）	太陽フレアの脅威、「地震や津波同様のリスク認識を」—名古屋大学教授 三好由純氏
2022.7.6	日本経済新聞（夕刊）	温帯低気圧でも大雨警戒 台風 4 号が変化、なお大気不安定 大量の水蒸気、日本付近に（ウェザープラス）
2022.7.10	日本経済新聞（朝刊）	NIKKEI The STYLE—名古屋大学教授、台風研究のスペシャリスト坪木和久さん（My Story） 「真実の値」楽しく求める
2022.7.17	日本経済新聞（朝刊）	線状降水帯の予測「対応未定」7割 過去被害 35 市調査、活用準備遅れ
2022.7.21	毎日新聞（朝刊）	名大チーム確認 トンガ噴火時も発生「電離層の乱れ」 津波早期検知に期待
2022.7.21	毎日新聞（東京：朝刊）	擾乱：トンガ噴火時も発生「電離層の乱れ」 津波早期検知に期待 名大チーム確認
2022.8.12	朝日新聞（朝刊）	宇宙天気予報 日常生活を守れ フレア発生 AI で予測／太陽の謎 研究強化
2022.8.18	毎日新聞（東京：朝刊）	科学の森：超大型台風を人為的に弱める 地球温暖化で強力化、被害も増加
2022.8.17	室蘭民報	写真で見る南極の世界 —2 人の観測隊メンバー— / いざ！南極へ 佐々木聡志さん①
2022.8.18		／地球の健康を調べるために！ 佐々木聡志さん②
2022.8.19		／真っ白な世界だけではない南極大陸 佐々木聡志さん③
2022.8.20		／宇宙よりも遠い場所でのテント生活 佐々木聡志さん④
2022.8.21		／もしものための訓練 佐々木聡志さん⑤
2022.9.2	徳島新聞	南極調査 児童に紹介 鳴門出身元隊員、故郷で講演
2022.9.8	毎日新聞（東京：朝刊）	PICKUP：線状降水帯生む 海と大気の「前線」 坪木和久・名古屋大教授の話
2022.9.9	北海道新聞電子版 どうしん（web）	横浜国立大学筆保センター長にスポットを当てた台風制御の研究紹介
2022.9.10	朝日新聞（朝刊）	台風の勢力、衛星画像で探る 発達する「目」や雲の動き、より正確に 「ひまわり 8 号」データ活用 実測と合わせて
2022.9.11	毎日新聞	人工降雨装置：「人工降雨装置」出番は？都が所有、効果限定的 「量、場所調整できれば減殺も」/東京
2022.9.16	朝日新聞（朝刊）	科学と未来 雨乞いをこえて 人工降雨、研究は続く 気候を変える 気象を操る

12. 社会活動

年月日	新聞名	記事
2022.9.19	The Jerusalem Post (web)	Scientists study Earth's rotation changes through Byzantine eclipses
2022.9.20	読売新聞(大阪:夕刊)	台風14号「最強級」陸上通過で衰え 気象庁 「湿った空気の吸い込み弱く」
2022.9.20	毎日新聞(朝刊)	台風14号:「最強」台風、各地に爪痕
2022.9.20	日本経済新聞(朝刊)	台風14号「対流バースト」で急発達か 名古屋大 飛行機から「目」の観測成功
2022.9.20	毎日新聞(東京:朝刊)	台風14号:最強台風、九州に爪痕 14号 冠水・土砂崩れ
2022.9.20	読売新聞(東京:夕刊)	台風14号 陸上進み 勢い弱まる 乾いた空気取り込む?
2022.9.21	読売新聞(大阪:朝刊)	台風14号 「最強級」陸上進み弱く 水蒸気取り込めず
2022.9.21	日本経済新聞(朝刊)	「強力」台風 接近2.5倍に 過去40年分析、速度も3割以上遅く 14号、温帯低気圧に
2022.9.25	読売新聞(朝刊)	台風14号 短時間で上陸 避難に影響
2022.10.7	読売新聞(大阪:朝刊)	[なるほど科学&医療] 最強級14号 秋台風ゆっくり 影響長期化
2022.10.12	富山新聞 DIGITAL (web)	特殊なオーロラ発生でオゾン量の減少観測 金大など世界初 大気変動予測に貢献
2022.10.20	日刊工業新聞	オゾン量の極端な減少発見 宇宙からの放射線帯電子影響
2022.10.27	毎日新聞	科学森 観測態勢手薄の「海域火山」「津波」「軽石」対策の必要性認識
2022.10.28	日本経済新聞(web)	名大など、宇宙空間で電子からプラズマの波へのエネルギー供給を直接捉え効率の良い電磁波成長の理論を観測で実証
2022.11.2	日本経済新聞	UPDATE 知の現場 名古屋大学 太陽圏サイエンスセンター 太陽フレアの解明めざす
2022.11.23	読売新聞(東京:朝刊)	[気候危機] (上) また台風… 途上国の嘆き その1
2022.11.25	日刊工業新聞(朝刊)	北極海からの水蒸気増 北大など解明 温暖化で積雪増加
2022.12.14	中日新聞(朝刊)	台風災害の危険 「年々増大」名古屋で講演 気象の専門家ら訴え
2023.2.25	中日新聞	東海国立大学機構×富士通 スパコンやAI活用 技術開発へ包括協定
2023.2.26	中日新聞	富士通と協定結び宇宙研究など促進 東海国立大学機構
2023.2.27	日刊工業新聞	東海国立大機構と富士通、健康・宇宙研究で包括協定
2023.2.28	日本経済新聞	東海国立大学機構と富士通 医療・宇宙分野で提携 データ分析技術生かす
2023.3.1	十勝毎日新聞	陸別に8年ぶり 低緯度オーロラ 天文台撮影
2023.3.2	北海道新聞	陸別に低緯度オーロラ 8年ぶり 名古屋大の機器が観測
2023.3.8	中日新聞(朝刊)	H3 部品メーカー落胆 打ち上げ失敗「まさか」
2023.3.8	日経産業新聞	富士通と医療・宇宙で産学連携
2023.3.14	十勝毎日新聞	天文台の入館 800人増 4600人 陸別町や研究機関活動報告 2022年度の活動報告などを行った陸別町社会連携連絡協議会

■ テレビ・書籍・ニュースサイトほか

年月日	番組・WEBサイトなど	放送局など	内容	出演・担当
2022.4.12	SCI NEWS	ニュースサイト	Earliest Known Report of Aurora Found in Ancient Chinese Chronicle	早川 尚志
2022.4.15	Phys.org	ニュースサイト	Earliest record of a candidate aurora found in Chinese annals	早川 尚志
2022.4.25	Live Science	ニュースサイト	Earliest documented aurora found in ancient Chinese text	早川 尚志
2022.5.12	TECH+	マイナビ Web マガジン	突発発光オーロラからコーラス電磁波発生域での周波数特性を金沢大などが解明	塩川 和夫
2022.5.12	コズミックフロント	NHK BSP+4K	ナゾの巨大爆発 スーパーフレア	草野 完也 早川 尚志
2022.5.15	THE BIG ISSUE JAPAN 431号	ビッグイシュー日本	こちら「宇宙天気」予報:「樹木の年輪が記録する『スーパーフレア』の可能性」	三宅 美沙
2022.5.18	AstroArts	Web マガジン	フラッシュオーロラから宇宙のコーラス電磁波の特性を解明	塩川 和夫 三好 由純

年月日	番組・WEB サイトなど	放送局など	内容	出演・担当
2022.5.25	日経サイエンス 7月号	日経サイエンス	脈動するオーロラ ロケットで観測 オーロラの出現に合わせた観測ロケットの打ち上げに成功	三好 由純 能勢 正仁
2022.5.30	ニュースウオッチ9	NHK 総合テレビ	「線状降水帯情報」あさって開始大雨対策での活用は？（線状降水帯予報について 専門家としてコメント）	坪木 和久
2022.6.2	NHK コズミックフロント「太陽 vs 地球磁場 天使か？悪魔か？」	NHK BSP+4K	太陽風と地球システムとの攻防戦に、点滅を繰り返す謎のオーロラ研究から迫る。	三好 由純 水野 亮
2022.6.8	AstroArts	Web マガジン	深層学習でオーロラの出現を自動検知	野澤 悟徳
2022.6.21	TECH+	マイナビ Web マガジン	【火災原因】北極域の炭素粒子と森林火災が関係している!?	大畑 祥
2022.6.24	ジャーナルクロス 水害からどう身を守る？	NHK ラジオ第1	線状降水帯、川の氾濫について 専門家としてコメント	坪木 和久
2022.7.2	ウェークアップ	日本テレビ	異常気象の原因解説	坪木 和久
2022.7.5	NHK ニュース	NHK 総合	台風4号のその後を解説	坪木 和久
2022.7.5	報道ステーション他	テレビ朝日他 CBC テレビ 東海テレビ	日本初“大気の川”を航空機で観測 『線状降水帯』予測はなぜ難しいのか？研究最前線観測飛行の様態を中継、ドロップゾンデスタジオで紹介など	坪木 和久
2022.7.6	AbemaMorning	テレビ朝日	「大気の川」を上空から初観測 豪雨で「人命失われない社会に」	坪木 和久
2022.7.6	スーパーJチャンネル(愛知では「アップ!」)	テレビ朝日	観測飛行の様態を中継、ドロップゾンデスタジオで紹介	坪木 和久
2022.7.7	ニュースチャンネル	AbemaTV		
2022.7.14	earth.com, UN Disaster Assessment and Coordination (UNDAC)	ニュースサイト web マガジンなど	トンガ火山の大規模噴火後に観測された電離圏擾乱の発生機構とその電離圏変動を用いた災害軽減研究への応用について、インタビューおよび論文紹介	新堀 淳樹
2022.7.15	The Science Times			
2022.7.19	NEWS SALT			
2022.7.20	Información, Información, Faro de Vigo, SPORT, Elperiodico, ScienceDaily, La Macchina Del Tempo			
2022.7.26	AlphaGalileo			
2022.7.28	AM Costa Rica, Insurance Bix			
2022.8.8	Inverse, The Golden News, Breaking News Science, Real Online Info			
2022.8.10	ElondonBuzz Science			
2022.8.11	Bolly Inside Sports News			
2022.8.30	ZDNet Japan エキサイトニュース他	ニュースサイト	青山学院大学ら8大学の共同研究グループが「大型レーザー装置で実験室に宇宙プラズマ衝撃波を生成—宇宙線の生成メカニズム解明に向け新たな研究手段を確立—」	梅田 隆行
2022.8.31	TECH+	マイナビ Web マガジン		
2022.9.1	環 KWAN 43号	学内誌	計算で挑む環境予測—コンピュータ上の地球	相木 和久
2022.9.9	週刊朝日	朝日新聞社	政府が警戒する「太陽フレア」はいつ起きてもおかしくない	草野 完也
2022.9.11	ガリレオ X	BS フジ	太陽の真の姿 文明社会を襲う巨大フレアの脅威	草野 完也
2022.9.16	TECH+	マイナビ Web マガジン	名大など、西暦4~7世紀頃の日食記録から当時の地球自転速度の精度を向上	早川 尚志
2022.9.16	Yahoo! テレ朝ニュース	テレビ朝日	台風14号の目 航空機からの「直接観測」	坪木 和久

12. 社会活動

年月日	番組・WEB サイトなど	放送局など	内容	出演・担当
2022.9.16	Yahoo! テレ朝ニュース、スーパーJチャンネル、報道ステーション、ABEMA 倍速ニュース	テレビ朝日	(捉えた 台風の目) “雲の渦” クッキリ 上空から見た台風 14 号	坪木 和久
2022.9.17	スーパーJチャンネル、サタデーステーション	テレビ朝日		
2022.9.17	ニュース番組各種	テレビ局各種	台風 14 号に航空機で接近”台風の目の中”に観測機器を投下「伊勢湾台風」とほぼ同クラスの”危険な台風”	坪木 和久
2022.9.19	ウェブニュース	CBC テレビ		
2022.9.20	ニュース番組各種	NHK、東海テレビ		
2022.9.21	めざまし 8	フジテレビ	台風の台風の研究および今後の台風研究について (タイフーンショット) ZOOM 生出演	坪木 和久
2022.9.21	LINE TODAY (台湾) 明日科学	ニュース配信アプリ	ビザンツ帝国の日食記録から地球の自転速度変化をたどる	早川 尚志
2022.9.22	AstroArts	Web マガジン		
2022.9.22	モーニングショー	テレビ朝日	台風飛行機観測 (捉えた 台風の目) “雲の渦” クッキリ 上空から見た台風 14 号	坪木 和久
2022.10.1	広報なると「まちの出来事」	広報なると	「小さな化石 (微化石) から南極を探る」 (2022 年 8 月 24 日に行った出前授業についてコメント)	佐々木 聡史
2022.10.13	NHK ニュース おはよう日本	NHK 総合テレビ	「台風研究最前線」を追った企画 横浜国立大学 台風センターの取り組み	坪木 和久
2022.10.14	TECH+	マイナビ web マガジン	金沢大など、「孤立陽子オーロラ」直下の中間圏でオゾン量の極端な減少を確認	塩川 和夫 大塚 雄一
2022.10.22	BOSAI: Science that Can Save Your Life	NHK World -Japan	#22 Solar Flares (防災としての太陽フレア予測研究)	草野 完也
2022.10.31	チャント	CBC テレビ	台風研究の最前線 台風飛行機観測について	坪木 和久
2022.11.2	昼ニュース	TBS テレビ		
2022.11.1	TECH+	マイナビ Web マガジン	名大など、地球磁気圏でのプラズマ波へのエネルギー供給の直接観測に成功	北村 成寿 三好 由純 中村 紗都子
2022.11.11	北海道道	NHK 総合 1 (北海道)	赤いオーロラ～幻の夜空がよみがえる～	早川 尚志
2022.11.21	BuzzFeed Japan News 他	ニュースサイト	時速 300 キロ以上の暴風が…日本を襲う「スーパー台風」未来の危機に立ち向かう研究者の思い	坪木 和久
2022.11.23	Yahoo! JAPAN			
2022.12.3	BOSAI: Science that Can Save Your Life	NHK World -Japan	#23 Typhoon Forecasting (風の飛行機観測の紹介)	坪木 和久
2022.12.18	明日をまもるナビ	NHK 総合テレビ	2022 年 自然災害を振り返る 気象の専門家としてスタジオ出演	坪木 和久
2022.12.25	サイエンス ZERO	NHK E テレ	「脈動オーロラ」に挑む大観測! 宇宙の脅威“キラ電子”に迫れ (あらせ衛星および LAMP ロケット実験に関する紹介)	三好 由純
2023.1.1	大学ジャーナル Online	ニュースサイト	川口市立科学館の太陽観測データは世界屈指名古屋大学など確認	早川 尚志
2023.1.5	EurekAlert 他	ニュースサイト	Physicists confirm effective wave growth theory in space	北村 成寿 三好 由純
2023.1.10	Science Daily 他			
2023.1.10	報道ステーション	テレビ朝日	風呂もなく…果てしない雪原で“車中泊”南極内陸部で温暖化調査 “地下 20 m 江戸期のアイスコア”	栗田 直幸
2023.1.10	IEEE Spectrum, Sensor	IEEE web マガジン	Monitoring Space Weather From the Ground Scientists use magneto-impedance sensors to cut costs of space weather reporting (低コストの磁力計を開発し、宇宙天気研究への応用について、インタビューおよび論文紹介)	能勢 正仁

年月日	番組・WEB サイトなど	放送局など	内容	出演・担当
2023.1.11	AstroArts	Web マガジン	一人で40年、世界屈指の安定性を誇る太陽観測記録	早川 尚志
2023.1.13	東海ドまんなか!	NHK 総合テレビ	2023年“宇宙への旅”～ものづくり東海の挑戦～	田島 宏康
2023.1.23	Nature, technology features	Nature	Seven technologies to watch in 2023 (高精度 ¹⁴ C年代測定についてコメント)	三宅 美沙
2023.1.30	ANN ニュース	テレビ朝日	“南極の温暖化”実態は テレビ朝日記者が南極観測隊に同行取材【SDGs】	栗田 直幸
2023.2.5	サンデーステーション	テレビ朝日	【南極】観測船「しらせ」で“宇宙よりも遠い場所”へ 温暖化解明のカギ握る「棚氷」	栗田 直幸
2023.2.24	UchuBiz, TECH+	Web マガジン	「宇宙天気予報」を高度化-富士通と東海国立大学機構が連携、スパコンなど活用	宇宙地球環境研究所
2023.2.27	日経サイエンス別冊258「激動の天と地」	日経サイエンス社	第2章 巨大太陽フレア(取材協力) 巨木の年輪に刻まれた太陽の異変 古文書が助けた科学解析) 進化する宇宙天気予報 ネットワーク社会の崩壊を食い止める	三宅 美沙 早川 尚志 草野 完也
2023.3.1	BIGLOBE ニュース	ニュースサイト	北海道で磁気嵐に伴う弱い低緯度オーロラを観測! 名大が発表	西谷 望
2023.3.1	環 KWAN 44 号	学内誌	大気と海から考える環境問題・政策 環境変化と人間活動	石坂 丞二
2023.3.7	スーパーJチャンネル	テレビ朝日	<news BOX>貴重な瞬間・オーロラ爆発・目の前で	三好 由純
2023.3.20	天然生活 Vol.215, 5月号	扶桑社	南極観測でわかる地球環境のこと	栗田 直幸
2023.3.28	マイネ王, スタッフブログ, IT ガジェット	mineo	いまさらだけど、電波とは? あまり理解できていないので電波の専門家に聞いた	中島 拓
2023.3.29	BS12 ハロー♪宇宙天気予報	BS12	第1夜 太陽活動の解説	草野 完也
2023.3.30			第2夜 宇宙天気予報についての解説	
2023.3.30	天然生活 web	扶桑社	南極観測隊に聞いた、南極観測でわかる、私たちの暮らしの未来	栗田 直幸
2023.3.31	小樽学 港町から地域を考える、醍醐龍馬(編著)	日本経済評論社	第10章小樽から見たオーロラと太陽地球環境	早川 尚志

その他図の引用、内容の確認・監修など

施設の住所・連絡先

地区		名称	所在地	電話・FAX
東山地区	①	研究所共同館I・II	〒464-8601 名古屋市千種区不老町	TEL: 052-747-6303 FAX: 052-747-6313
豊川地区	②	豊川分室	〒442-8507 愛知県豊川市穂ノ原 3-13	TEL: 0533-89-5206 FAX: 0533-86-3154
北海道地区	③	母子里観測所	〒074-0741 北海道雨竜郡幌加内町字母子里北西 3	TEL: 0165-38-2345 FAX: 0165-38-2345
	④	陸別観測所	〒089-4301 北海道足寄郡陸別町字遠別	TEL: 0156-27-8103
			〒089-4300 北海道足寄郡陸別町字ポントマム 58-1, 78-1, 78-5, 129-1, 129-4	TEL: 0156-27-4011
山梨地区	⑤	富士観測所	〒401-0338 山梨県南都留郡富士河口湖町富士ヶ嶺 1347-2	TEL: 0555-89-2829
鹿児島地区	⑥	鹿児島観測所 (アンテナ)	〒891-2112 鹿児島県垂水市本城字下本城 3860-1	TEL: 0994-32-0730
			〒891-2115 鹿児島県垂水市大字浜平字山角	

